

備える!

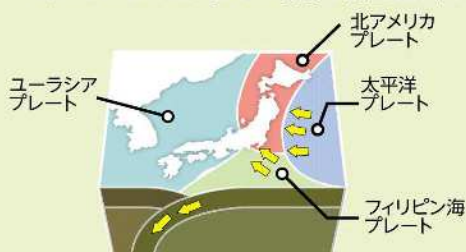
地震編

地震のことを知っておこう!

岡崎市でも過去に地震による被害が発生したことがあります。そして、岡崎市に被害をもたらす地震は、今後も発生する可能性があります。地震による被害を少なくするためには、地震のこと、地震が発生した時に起こることを知っておくことが大切です。

Q 地震のしくみは?

A 地球の表面は十数枚の巨大な岩盤(プレート)で覆われており、それぞれが別々の方向に年間数cmの速度で移動しています(プレート運動)。このプレート運動により、プレートの境界やその周辺には大きな力が加わり、長い年月の間に巨大なエネルギーがひずみとして蓄えられます。そのひずみが限界に達すると、プレートに亀裂が入ったり大きく動いたりします。これが地震です。日本のまわりでは、4枚のプレートがぶつかりあっているために多くの地震が発生します。



日本列島周辺で発生する地震のタイプ

海溝型地震

海のプレートが陸のプレートの下へ沈み込む時に、陸のプレートも下に引きずり込まれます。この陸のプレートがその力に耐えきれず、元に戻ろうとするとときに発生する地震です。この地震は巨大地震となることがあり、津波を伴います。

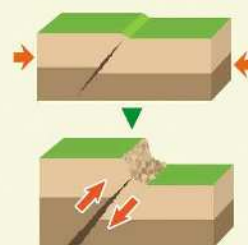
(例) 関東大震災、東日本大震災など



内陸の活断層で発生する地震

海のプレートの動きなどによって、陸のプレート内に力が加わり、活断層がずれ動くことによって発生する地震です。この地震は、人が住む場所のすぐ下で起こることもあり、その場合は大きな被害が発生します。

(例) 阪神・淡路大震災、熊本地震など



コラム 地震はいつどこで発生するのかわかりません!

日本列島の太平洋沖にはプレートの沈み込んでいる場所が広範囲にあり、内陸にはいたるところに断層が走っています。現在、科学の進歩により、地震が起こった後、どこでどのように地震が起こったのかを詳しく調べることができるようになってきましたが、いまのところ、それを事前に知ることは叶いません。つまり、いつどこで起こってもおかしくないけれど、それがいつどこなのかは分からないということです。だからこそう地震が起きても良いように備えを進めることが重要です。

Q 南海トラフ巨大地震とは?

A 「南海トラフ」とは、静岡県駿河湾から宮崎県の日向灘沖までの海底に続く、深い谷のことです。これはフィリピン海プレートが日本列島のあるユーラシアプレートの下に沈み込むことで作り出されています。

そして南海トラフのどこかで発生する海溝型地震のことを総称して「南海トラフ地震」といい、岡崎市では、想定震源域で起こる最大規模の地震を「南海トラフ巨大地震」と呼んでいます。

南海トラフでは、過去に繰り返し大規模地震が発生しており、今後発生する確率は「30年以内に80%程度」とかなり高く、いつ起きても不思議ではない状況にあるのです。





南海トラフ巨大地震の過去の事例は？



過去の事例を見てみると、南海トラフ沿いでは約100～150年ごとに、繰り返し大規模地震が発生していることがわかっています。

また、1707年の宝永地震のように、広い領域で同時に発生したり、1854年の安政東海地震と安政南海地震のように、マグニチュード8クラスの大規模地震が隣接する領域で時間差をおいて発生したりするなど、その発生過程に多様性があることがわかります。

南海トラフ巨大地震の過去事例

南海	東南海	東海
	慶長地震 (M7.9/1605年)	
	宝永地震 (M8.6/1707年)	
安政南海地震 (M8.4/1854年)	安政東海地震 (M8.4/1854年)	
	32時間後に発生！	
昭和南海地震 (M8.0/1946年)	昭和東南海地震 (M7.9/1944年)	
	2年後に発生！	



「南海トラフ地震臨時情報」って？



過去の事例を見ると分かるように、一度大規模地震が発生したとしてもそれで終わりではなく、立て続けに大規模地震が発生する可能性が考えられるため、そのことを「南海トラフ地震臨時情報」という形で、注意喚起をします。発表される情報の種類と、条件は次のとおりです。なお、この情報は気象庁より発表されます。

南海トラフ地震臨時情報 (巨大地震警戒)

南海トラフ地震が想定されている場所でマグニチュード8以上の地震が発生したとき。



隣接する場所で立て続けに巨大地震が発生する可能性あり！

南海トラフ地震臨時情報 (巨大地震注意)

南海トラフ沿い、またはその近くで、マグニチュード7以上、8未満の地震が発生したとき。



この地震や、現象が南海トラフ巨大地震の前兆である可能性あり！

陸のプレートと海のプレートが強くくっついていて、通常とは異なるゆっくりとしたずれがあったとき。



※情報を発表するかどうかの検討を開始したときには「南海トラフ地震臨時情報(調査中)」という情報が発表されます。

※「巨大地震警戒」、「巨大地震注意」のいずれにも該当しないときには「南海トラフ地震臨時情報(調査終了)」という情報が発表されます。

※南海トラフ地震臨時情報の種類や発表条件についての詳細は気象庁HPをご覧ください。

(気象庁) 南海トラフ地震に関連する情報の種類と発表条件: https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/nteq/info_criterion.html



南海トラフ地震臨時情報の発表が無いまま、突発的に巨大地震が発生することもあります！

コラム 今までにこんなことってあったの？ ～世界や国内の過去事例～

内閣府の資料によると、過去に世界中で起こったマグニチュード8以上の大地震108事例のうち、その後7日以内に隣接した領域でマグニチュード8以上の地震が発生したことは7回あったとのこと。また、東日本大震災をもたらしたあの巨大地震の2日前に宮城県の前でマグニチュード7の地震が起こっていましたが、そのようにマグニチュード7クラスの地震が起こった後、その周辺でマグニチュード7以上の地震が起こった事例も少ないながらも知られています。



「南海トラフ地震臨時情報」が発表されたらどうする?



南海トラフ地震臨時情報（調査中）

まずは落ち着き、状況を把握しましょう。
今後情報が発表されたとき、すぐに行動できるよう準備をしてください。

南海トラフ地震臨時情報 （巨大地震警戒）

- 日頃からの地震への備えを再確認してください。
- 大規模地震発生の可能性を視野に入れ、耐震性に不安のある住宅にお住まいの方や、土砂災害や地震火災の延焼に不安のある方は、自主避難を検討してください。
- 避難先は親戚や知人宅を基本とします。それが困難な場合は、市からの情報に従い、市が開設する自主避難所への避難を検討してください。
- 対応期間終了後は通常の生活を行ってください。ただし大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないことに留意し、日頃の地震への備えは継続して行いましょう。

対応期間：巨大地震警戒のときは2週間、巨大地震注意のときは1週間

南海トラフ地震臨時情報 （巨大地震注意）

南海トラフ地震臨時情報 （調査終了）

通常の生活を行ってください。ただし、大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないことに留意し、日頃の地震への備えは継続して行いましょう。



あくまでも「普段と比べて南海トラフ地震発生の可能性が高まった」という情報です。臨時情報の発表前に巨大地震が起きたり、臨時情報が発表されても地震が起きなかったり、対応期間が終わった後で巨大地震が起きることもありえます。臨時情報発表の有無にかかわらず、日頃から地震に備えることが重要です。



日頃からの地震への備えってどんなこと?



地震はいつどこで発生するか分からないため、備えは日頃から行っておくことが基本です。そして南海トラフ地震臨時情報の発表時には、日頃の備えを再確認するようにしましょう。

地震の揺れへの備え

- ☐ 家具の固定やガラス飛散防止対策
- ☐ ベッドの頭上や高い場所に物を置かない

地震火災への備え

- ☐ 火災警報器の電池切れがないようにする
- ☐ コンロやストーブの周囲に燃えやすい物を置かない
- ☐ 感震ブレーカーの設置

避難生活への備え

- ☐ 水や食料、簡易トイレなどの備蓄
- ☐ 携帯電話、モバイルバッテリーの充電

避難への備え

- ☐ ハザードマップで地域の危険箇所を確認
- ☐ 非常持出品を準備し、すぐ持ち出せる場所に置く
- ☐ すぐ逃げられる服装で就寝する
- ☐ 家族との安否確認方法や、避難先、避難経路を決めておく
- ☐ 津波・土砂災害などの危険性が高い場所には、なるべく近づかないようにする
- ☐ 避難情報を確実に入手できるようにする（携帯電話の通知音を大きくするなど）

南海トラフ地震臨時情報についてより詳しく知りたい方は、内閣府のホームページや、市の「南海トラフ地震臨時情報における防災対応指針」をご覧ください。

（内閣府）南海トラフ地震臨時情報が発表されたら！：<https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/rinji/index.html>

（岡崎市）南海トラフ地震臨時情報における防災対応指針：<https://okazaki-bousai-portal.transmod.jp/sonae/96.html>